



アメリカ医療の ト・リ・セ・ツ

取扱説明書



渡米してすぐの方も、長年こちらに住んでいる方も、米国医療に関することになる「よくわからない」「もっと知りたい」と感じている方も多いのではないのでしょうか。そこで、ミシガン大学の家庭医学科の先生方に医療に関する様々なトピックについてまとめていただき、連載でご紹介します。

Vol. 05

医療通訳について

医療機関に受診して言葉が上手く伝わらなくて悩んだことはありませんか？医療英語は通常の話す英語よりも難しく、アメリカ人でも理解に苦しむ場合があります。ましてや日本人が内容をしっかり理解するのは難しい場合が多いと思います。そこで助けになるのが医療通訳です。今回は医療通訳の使い方、コツなどについて解説します。

アメリカでは1964年に制定された公民権法 Title VIIにより人種差別が禁止されました。具体的には職場、公共施設、連邦から助成金を受けている機関、選挙人登録、そして教育での差別を禁止しています。これをもとに、出身国に限らず言語通訳を受ける権利が保障されました。2000年にはビル・クリントン大統領が大統領令13166号に署名し、連邦から助成を受けている全ての医療機関、およびその他の機関は通訳を提供することが義務化されました。ミシガン大学病院はその例です。通訳は、現場に通訳者が来る対人通訳の場合と電話やオンラインでの通訳サービスの場合があります。これにより、英語を母国語としない人も英語を母国語とする人と同じレベルの医療を母国語で受けることが保障されました。



医療通訳と一般的な通訳の違い

通訳にはその人が受けた訓練や資格により様々な種類があります。その中で医療の現場で通訳を行う訓練を受けている人が医療通訳です。医療機関に勤務している通訳の多くはこの訓練を受けていると思われます。医療通訳において特徴的なのは、病院の他のスタッフと同じように守秘義務があること、医療用語を理解すること、通訳をするときに意識をしないこと、必要に応じて言語だけでなく文化的背景の説明をすることが挙げられます。



対人通訳と電話・オンライン通訳の違い

どれほど大規模な医療施設でも必要な全ての言語の通訳を24時間体制で確保することが無理ですので、現場に通訳を派遣することができない場合には電話やオンラインの通訳サービスを使うことがあります。全ての通訳者が医療通訳としての訓練を受けているわけではないこと、電話での通訳ではお互いの表

情が見えないことなどで対人通訳ほどスムーズに会話が進まないことがあります。上手くつかえれば十分助けになります。通訳が上手に行っている場合には言語が違って文章の長さはだいたい同じくらいになります。通訳された文章が極端に長い、または短い場合には通訳者が意識をしていたり、勝手に自分に意見を述べたりしている場合があります。注意が必要です。文化的背景を解説する場合には通訳者の話が長くなりますが、その場合は前もって通訳が解説をすることを知らせます。



通訳を上手に使うコツ

- 通訳にではなく、医師など話し相手に向かって話す
 - ▶ 通訳に「ドクターに薬は何日間飲むのか聞いてください」というのではなく、普通の会話のように「その薬は何日間飲むのですか？」と聞きます。通訳も“Patient is asking how long she/he should take the medicine”ではなく“How long should I take the medicine?”と通訳します
- 一度に通訳してもらうのは文章1-2つ分にとどめる
- 略語や難しい言葉避ける
- 通訳してくれた文の意味が分からなければ、わかるまで聞き直す
 - ▶ 医療通訳としての訓練を受けた通訳者でも意味を取り違えることや、知らないことがあります。話の意味がしっかりこない時には何度でも聞き返してください。



外来診療や検査を受けるときの通訳

診察や検査（検査技師などと詳しい話が必要な検査）など、前もって予約をして受診をする場合、通訳も一緒に予約しておくことができます。例えばミシガン大学病院ではカルテに英語以外の言語が第一言語と登録されている人の場合は通訳が必要か確認し、通訳の予約を同時に手配します。特に込み入った話が必要な場合、なるべく対人通訳を手配する努力をしています。通訳は電話やビデオ外来でも利用可能です。もし、病院から英語で電話がかかってきた場合で日本語の通訳

を頼みたい場合には“May I have a Japanese interpreter?”と頼んでみてください。三者通訳で通訳を追加できる場合があります。



救急外来受診時の通訳

救急外来を受診する場合、前もって通訳を予約しておくことはできませんが、必要な場合はその場で通訳を頼むことができます。この場合はほとんど電話、またはオンラインでの通訳サービスを使うことになります。



入院中の通訳

入院中に担当医、看護師、またはコンサルタントと話をしている際にも通訳を使うことができます。ちょっとした話や前もって準備ができなかった場合には電話通訳が使われます。大きな手術が必要になったなど、重要な話をしないといけない場合には前もって対人の通訳を予約して病院まで出向いてもらうこともあります。

以上、アメリカでの医療通訳について述べました。

外来診療、病院、検査などの受診時に通訳が必要と感じた場合には遠慮なく通訳を頼むようにしてください。対人の通訳は手配できなくても、電話通訳などのできる限りの対応をしてくれるはずですよ。



筆者プロフィール：
医師 清田礼乃（きよたあやの）
ミシガン大学医学部
家庭医学科助教授

千葉県出身。聖マリアンナ医科大学卒業。University of Pittsburgh Medical Center Shadyside家庭医学研修、Detroit Medical Center/ Wayne State University ホスピス・緩和医学フェローシップ、University of Hawaii 老年医学フェローシップ、および University of Hawaii 医学教育フェローシップ修了。2016年よりミシガン大学医学部家庭医学科に所属し、Livonia Health Center, Chelsea Retirement Community, 及びミシガン大学病院にて家庭医学、老年医学、緩和医療の診療をしています。